

## おかもち Ready-made Reprogramming 作品解説

### EXPLANATION OF "OKAMOCHI READY-MADE REPROGRAMMING"

.....  
久富 敏明 デザイン教育研究センター 准教授

Toshaiki HISATOMI Center for Design Studies, Associate Professor  
.....

#### 要旨

本稿は、作品「おかもち Ready-made Reprogramming」の解説である。「Ready-made（既製品）」について熟考することによってデザインされた本作品は、2010年1月に開催された「2010 WORLD CREATORS AWARDS」の入賞作品のひとつである。

#### Summary

This paper is the explanation of "OKAMOCHI Ready-made Reprogramming". International competition of "WORLD CREATORS AWARDS 2010" was held in January, 2010. "OKAMOCHI Ready-made Reprogramming" was one of the winning works. The work was designed that based on consideration about the "Ready-made".



図1) 作品「おかもち Ready-made Reprogramming」1

## 1 | はじめに

「おかもち Ready-made Reprogramming」（以下、「おかもち」と略す）（図1, 2, 3, 4）は、ショップデザインコンペであるWORLD SPACE CREATORS AWARDS 2010 JOY-T部門ショップデザイン賞\*1の入賞作品である。2004年より開催されているショップデザイン部門に加えて2010年よりJOY-T部門が新設された。JOY-T部門は、Tシャツのデザインとショップデザインの2部門があり、募集要項は下記のとおりである。

『Tシャツデザイン、モバイル（期間限定可動）ショップデザイン、Tシャツの売り方をご提案ください。テーマは、「JOY-T」。ご応募いただくデザインは商品化、および実施を前提にした作品に限ります。ショップデザイン：モバイル（期間限定可動）ショップデザイン 広さは1m<sup>2</sup>～10m<sup>2</sup>（3坪）以内。自由設計。』

コンペの主題である「モバイル（期間限定可動）」に新しいデザインをつくりだす可能性を感じ応募することを決めた。プロジェクトの始まりには2通りある。ひとつは



図2) 作品「おかもち Ready-made Reprogramming」2

強いアイデアが既にあり、それをプロジェクト固有の条件に合わせて展開していく方法。他方は、課題に対してまずはリサーチを実施し、そこからアイデアを発見し導き出す進め方である。「おかもち」は後者を選択した。まずは「モバイル」についての技術的可能性を探った。移動時の携帯性を高めるための軽量化や容積を小さくするための可変性など、事例研究からデザインを始めた。

## 2 | 「おかもち」について

リサーチの作業を進めている段階で、ある事例に出会った瞬間にアイデアが湧き上がることがある。コンペのテーマに対して「ふるしき」や「テント」、「折畳み式のプロダクト製品」などの特徴を把握していく中で、「既製品 (Ready-made)」を組合せることでデザインをつくりだせるのではないかと臆げに考え始めていた。持ち運ぶための装置を調べている時に出会いがやってきた。「おかもち」である。それは、蕎麦屋などの出前のために使われる木製の把手がついた銀色のアルミ製の箱である。その



図3) 作品「おかもち Ready-made Reprogramming」3

堅牢性、軽さ、持ちやすさはデザイナーが新しくデザインする箱を超えて完成された機能美を持っていると感じた。更に、けんどん式の前扉はTシャツの陳列に適していることも合わせて、「おかもち」を基幹部品とすることを決めた。ただ「おかもち」を置いただけではショップにはならない。そこで、「おかもち」を支援する二次的な部品の選定に取りかかることにした。部品の選定にあたっては、「おかもち」に収納可能な大きさと軽さを持っていることを条件とした。蕎麦屋の出前がそうであるように、

「おかもち」ひとつをスーパーカブの荷台にのせて移動し、目的地でショップを展開するためである。まず「おかもち」の脚を検討した。伸縮可能で軽量な脚、それはカメラの三脚以外に無いと思った。完成度の高い既製品を使うことによって、デザイナーが伸縮可能な軽量の脚をデザインするよりも高い機能性と汎用性を持つと考えたのである。次にTシャツのディスプレイについての検討をおこなった。脚と同様に「おかもち」に収納される大きさの既製品をリストアップしていた時、Tシャツを着た





図4) 作品「おかもち Ready-made Reprogramming」4

風船が風に揺れるイメージを発想した。その理想型としてヘリウムガスを充填した風船にTシャツを着せて浮かばせる実験を試みたが、予想よりもTシャツの重量は重く成功しなかった。次に考えたのは、Tシャツそのものを風船のようにする案である。Tシャツの襟口と袖口をピンなどで簡易に塞いだ上で、下部からファンの風を送り込み膨らましたが美しくなかった。また、強い風力を持ったファンは「おかもち」に入らなかったためである。これらの実験を繰り返した後、Tシャツを着た風船を釣り竿に吊る

す最終案に至ることになる。Tシャツを着た風船を空に浮かばせることは実現できなかったが、カメラの三脚と同様に高い機能性（軽量・伸縮性）を持つ釣り竿を「おかもち」の部品に採用することによって、既製品の機能に着目して再構成する「Ready-made Reprogramming」の考えを補強することになると考えた。実際に組上げた「おかもち」の上部で揺れるTシャツは、自然風やファンからの風を受けて揺れ動き視認性の高いディスプレイとなった。更に、商品管理や情報伝達のためのコンピュータ、T

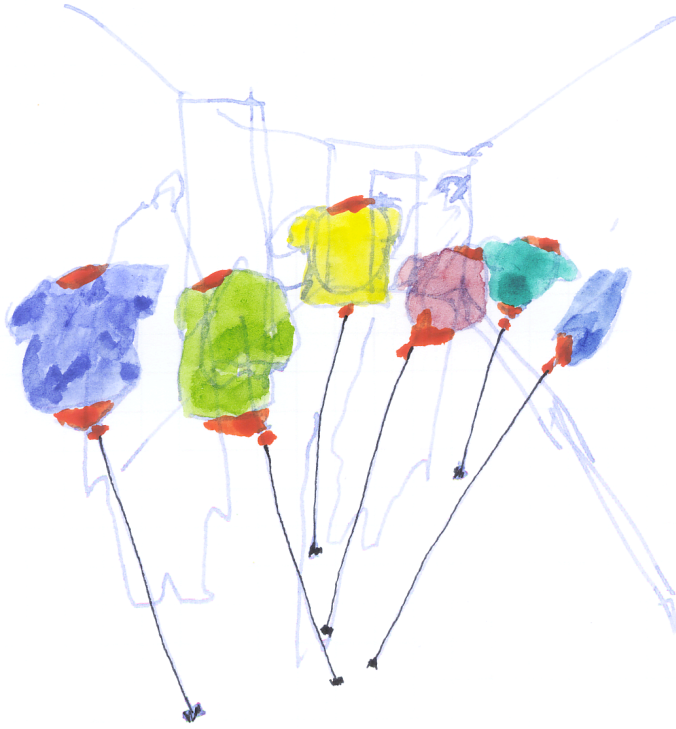


図5) アイデアスケッチ「おかもち Ready-made Reprogramming」1  
T-Shirtsを着た風船が揺れるイメージ

シャツを揺らすためのファン、風船を膨らませるためのポンプなど、機能を持った既製品の中から美しい物を選択しモバイルショップとして実現可能な完成度を持たせた。(図5, 6, 7, 8)

### 3 | 発想にいたるための知見について

「おかもち」の副題を「Ready-made Reprogramming」とした。副題をつけた理由は、「おかもち」を偶然に発見してデザイナーとしてのデザインを何も施すことなく案

がつくられた、と理解されないようにするためである。

Ready-madeは、マルセル・デュシャンの「自転車の車輪 (Bicycle Wheel)」(図9)からはじまる現代アートのひとつの手法である。既製品のなかで、とりわけ工業製品を使って構想される美術作品は、同じくデュシャンの「泉 (Fountain)」(図10)がある。既製品の小便器の向きを替えて偽名のサインをすることで彫刻としたこの作品は現代アートの可能性を大きく広げたのである。それによって、アーティストが作品を制作する行為を極限ま

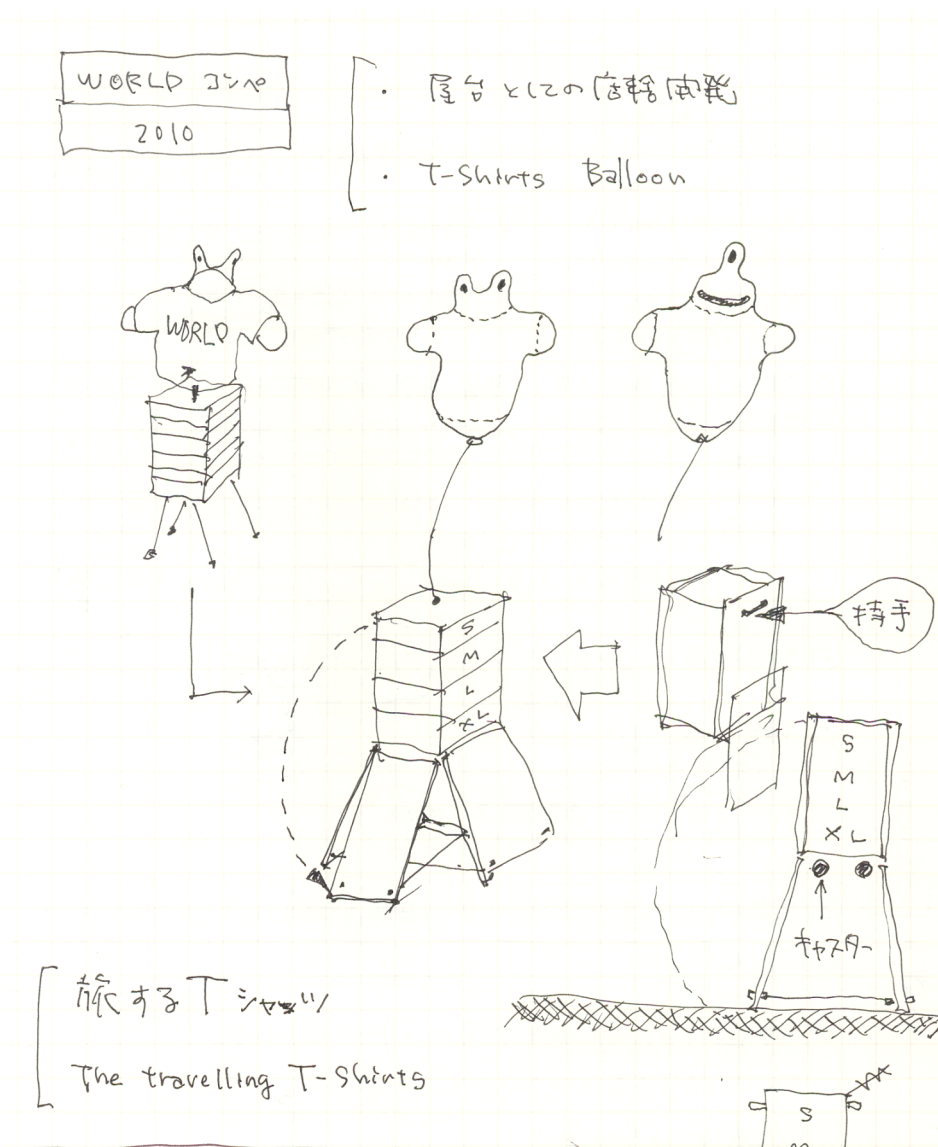


図6) アイデアスケッチ「おかもち Ready-made Reprogramming」2  
T-Shirtsを販売する屋台を検討

で省略し、構想することの優位性をアートの価値にもたらした。また、「自転車の車輪 (Bicycle Wheel)」の新しい美しさは、壁に写った回転する車輪の影にある。それは、既成品の中で動く機能を持ったものに着目して、近代以前では動く事の無かった彫刻作品の可能性を拡張した。

1920年代、近代以降の建築分野では鉄・ガラス・コンクリートに代表される工業製品を用いることにより新しい形式を獲得した。産業革命の機械とその美しさに影響

を受けながら機能主義のデザインが確立した。そのひとつとして、ル・コルビュジェは、「住宅は住むための機械である」\*2と唱えサヴォア邸 (図11, 12) を代表とする多くの住宅を設計した。機能主義の建築は、高い機能を持ち合理的につくられた建築が美しいという考えであり、装飾をともなつて成立していた前近代の建築から大きく変化を遂げた。その後、1980年代まで続くこの流れがポストモダニズムの登場によって変革を迎える。磯崎新の設計によるつくばセンタービル (図13, 14, 15) はそ

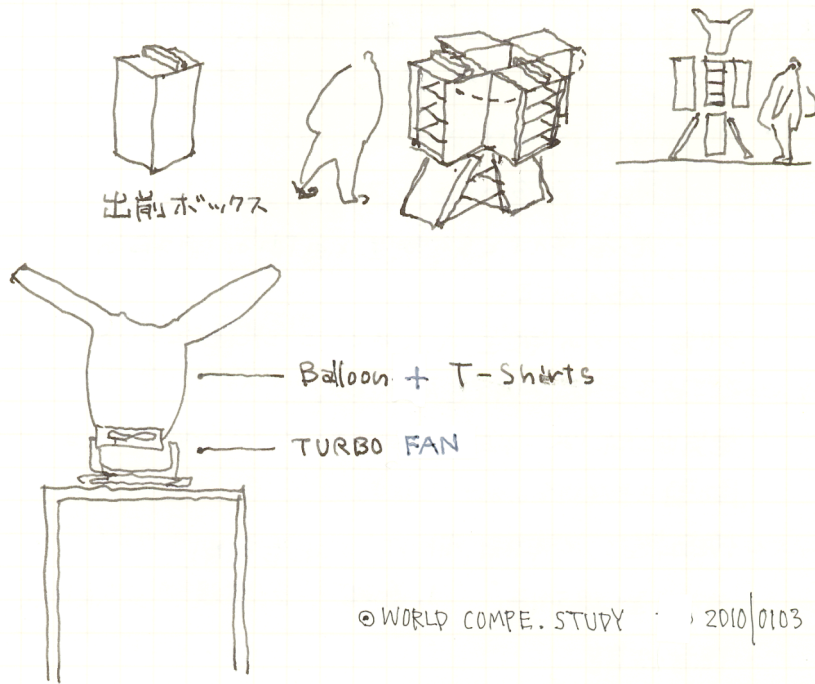


図7) アイデアスケッチ「おかもち Ready-made Reprogramming」3  
出前ボックス（おかもち）を使うことを検討

の代表的作品であり、そのデザインは前近代の全建築様式を等価に扱いそれらをコラージュしたものであった。その設計手法は、機能主義に代表される四角い箱形の近代建築を超えるものとして評価される一方で、装飾的な折衷主義であるとの批判もあった。<sup>\*3</sup>

更に、ナイジェル・コーツのデザインにおいては建築様式の引用に止まらず、全ての事物がプロジェクト毎に設定される物語の道具仕立てとして寄せ集められた。その中で特筆すべきことは、Bohemia Jazz Club（図16）の

客席に、払い下げになった飛行機の椅子が使われていたことにある。1985年に完成した作品において、椅子を新しくデザインするのでは無く、リユースしたことは意義深いと言える。それは、物をつくるためのエネルギー消費量に対する配慮や資源の再利用が一般化した現代において再評価されるべきである。

「おかもち」の発想は、上述した事柄についての知見がベースとなっている。機能主義が唱えられてから約1世紀が経ち、現代は高機能・高性能の物が溢れている。そ

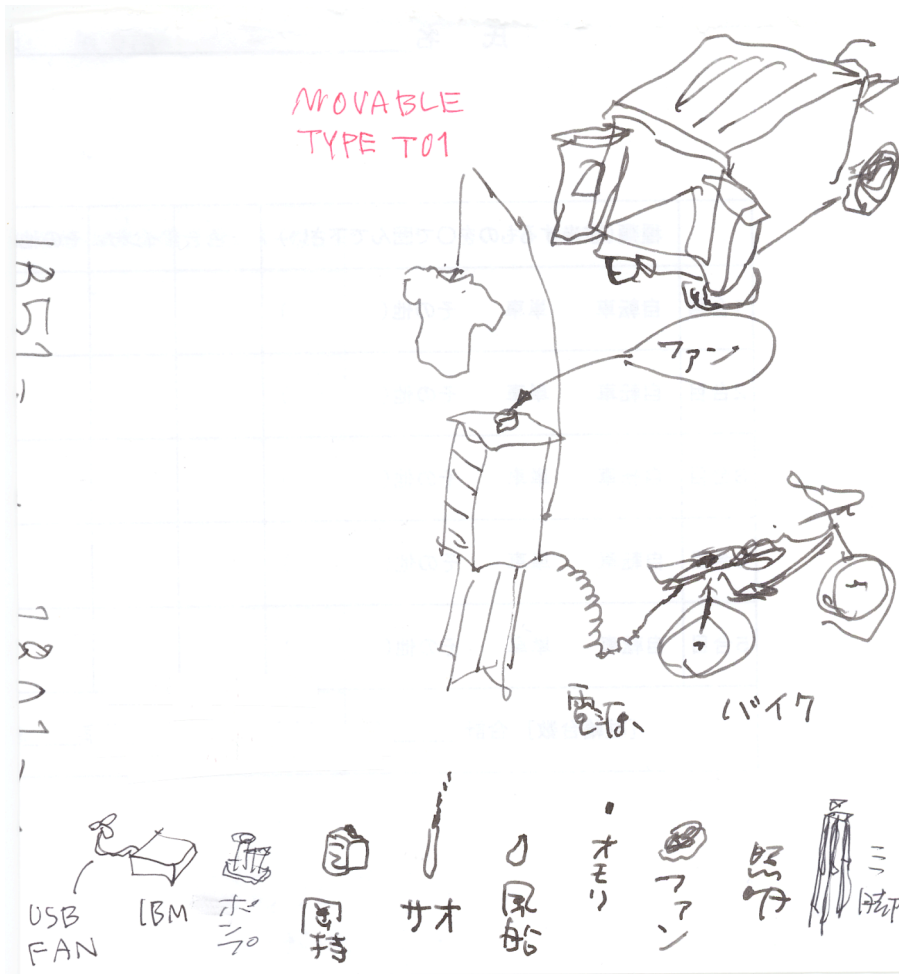


図8) アイデアスケッチ「おかもち Ready-made Reprogramming」4  
既製品（Ready-made）を組合せる最終案

れらを組合せることで新しいデザインを生み出せるのではないかと考えた。「おかもち」の副題とした「Ready-made Reprogramming」とは、美術的意味のある既製品や建築様式を組合せることを超えて、既製品としての本来の意味と機能を再評価し、他の既製品と組合せる事で新しい意味と機能を生み出すデザインの手法である。このデザイン手法において、デザイナーは形をつくりだすスケッチを描く事は無く、事物の編集者としての能力が問われることになる。

#### 4 | まとめ

「おかもち」のデザインについてこれまで述べてきた。ここでは、コンペの審査員の講評を引用し、そこから読み取れる「おかもち」のアイデアの可能性について考察する。

深沢直人審査委員長の「おかもち」に対する講評は以下のとおりである。

『「モバイル」というテーマをこんな風に解釈するのか！と、とても新鮮だった。ここ数年、店という業態自体に、





図9) マルセル・デュシャン「自転車の車輪」1913年



図10) マルセル・デュシャン「泉」1917年

枠やくくりが無くなってきている。最近では「箱作って、店構えて」という枠組みを取り払って、自分たちの好きな場所で布を広げて商売している人も増えていますから、「おかもち」はそういう兆しにおいて、とても自然に受け止めることのできる提案だった。現代はいろいろなことがルール化され過ぎている環境ではあるけれど、商売自体は“トレードオフ”、“物々交換”から始まったというその歴史を紐解くと、路上でどこでもショップが開けるという考え方は、ものすごくベーシックなものの売り方だと言える。一

見真逆と思われるインターネット（OS）の世界も、どなたところでも布を広げてお店になるという「おかもちショップ」と同じ考え方でどんどん市場（いちば）を生み出していることを考えると、リアルショップの世界でも、これからはもっとこのスタイルが広まって行くような気がします。』<sup>\*4</sup>

モバイルの可能性についてリサーチしたなかで、「ふるしき」（深沢氏のテキストのなかでは「布」）があった。まさにそれは、布を広げただけで店ができるアイデアそのも



図 11) 自動車の回転半径に合わせて計画された1階玄関廻りのガラス外壁



図 12) 装飾を排除する一方で、機械美を持つ客船を意識したデザイン

のである。「ふるしき」を超える何かを探し求め、リサーチしたことで「おかもち」の発見があった。『箱を作って、店構えて』ではなくモバイルに可能性を感じ取組むことによって発想された「おかもち」が評価されたのだと思う。

既製品の可能性をリ・デザインする「Ready-made Reprogramming」を今後も展開していく予定である。20世紀以降の先進国では、物が溢れ、消費され、廃棄されている。(図17, 18)「Ready-made Reprogramming」とは、分別回収されたゴミを最大限再利用する試みが推進される現

在において、廃棄される前に既製品の別の利用法を見つけることでもある。建築においては、リノベーション<sup>\*5</sup>やコンバージョン<sup>\*6</sup>が既に重要な仕事として位置づけられてきている中で、古材利用や移築を更に押し進めて複数の既存建物を即物的に組合せることで成立するようなデザインの可能性を探りたいと考えている。

註・引用文献





図 13) つくばセンタービル 東側全景



図 14) 外観の詳細



図 15) ローマのカンピドリオ広場を引用した床パターン

\*1- 「WORLD SPACE CREATORS AWARDS 2010 公式サイト」、アドレス (<http://wsca.world.co.jp/>)、最終アクセス日 2010年7月30日

2004年より毎年開催されているデザインコンペ。審査委員長はプロダクトデザイナーの深沢直人、審査委員にはインテリアデザイナー近藤康夫や写真家の仲佐猛、中道淳など各分野の第一人者が担当している。

\*2- 1924年、コルビュジエは著作『建築をめざして (VERS UNE ARCHITECTURE)』の中で、「住宅は住むための機械であ

る (machines à habiter)」と唱えた。

ル・コルビュジエ著、吉阪隆正訳、『建築をめざして』、鹿島出版会、1967年

\*3- つくばセンタービルについての批評は下記の文献に詳しい。

磯崎新編著、『建築のパフォーマンス つくばセンタービル論争』、PARCO出版局、1986年

\*4- 「WORLD SPACE CREATORS AWARDS 2010 公式サイト内 深沢直人審査委員長の講評」、





図 16) Bohemia Jazz Club 左壁側に飛行機の椅子が見える

#### アドレス

([http://wsca.world.co.jp/judges\\_J.html#comment\\_01](http://wsca.world.co.jp/judges_J.html#comment_01))

、最終アクセス日 2010年7月30日

\*5- リノベーションとは、既存建物を改修と合わせて機能の向上をはかり、建物を再生すること。

\*6- コンバージョンとは、建築分野において本来の建物の用途から別の用途に変更することを意味する。倉庫を美術館に、また、オフィスビルを集合住宅に変更するなどの実例がある。

#### 図版出展

図1, 2, 3, 4) 作品「おかもち Ready-made Reprogramming」

図版、筆者作成、2010年

図5, 6, 7, 8) アイデアスケッチ「おかもち Ready-made Reprogramming」図版、筆者作成、2010年

図9) 国立国際美術館編集、『マルセル・デュシャンと20世紀美術』、朝日新聞社、2004年、p. 13

図10) 前掲書、p. 66



図17) 廃棄された自転車



図18) 廃棄された鍋

図11, 12) 筆者撮影、2010年

図13) 『新建築8月臨時増刊「新建築1980-1990」』、第65刊9号、新建築社、1990年、p.106

図14) 前掲書 p.107

図15) 『新建築6月臨時増刊「建築20世紀 PART 2」』、第66刊8号、新建築社、1991年、p.237

図16) Anthony Fawcett 著、『ART RANDOM Zaha Hadid Nigel Coates New British Interiors』、KYOTO SHOIN、p.33

図17, 18) 筆者撮影、2010年